

第29回広島県理学療法士学会を開催するにあたり



第29回広島県理学療法士学会

学会長 馬上 泰次郎

医療法人社団CMC コールメディカルクリニック広島

この度、2025年11月30日（日）にエディオンピースウイング広島におきまして、第29回広島県理学療法士学会を開催させていただき運びとなりました。学会長を拝命いたしましたコールメディカルクリニック広島の馬上泰次郎と申します。

理学療法士の会員数は2024年時点で21万人を超え、年々増加傾向にあります。その多くは医療施設（協会会員の内、80.2%）に所属していますが、近年、社会のニーズや働き方の多様化に伴い、理学療法士が専門性を活かせる領域は着実に広がりを見せています。また、患者や家族が求める人生の最後を迎える時の場として、国民の30.9%が在宅での生活を希望し、在宅療養のニーズも増加しており、それらに応えるためには医療・介護における多職種連携・協働がますます重要となっています。私自身、訪問リハビリテーションの現場に身を置く中で、自施設だけでは解決できない課題に直面し、他施設や他職種との「つながり」の必要性を日々痛感しています。

在宅療養のニーズが高まる中で、在宅療養患者が居宅において生活機能の回復及び維持を図る観点を踏まえ、医療機関における急性期・回復期リハビリテーションから、地域における居宅生活の維持向上を目指す生活期リハビリテーションを切れ目なく提供できる体制の整備が求められます。私たち理学療法士には、自らの専門領域に留まることなく、常にアンテナを張り、その先に必要とされる介入を見据える視点が求められます。新しい知識を学び、新しい技術を習得し、そして新たな領域や他職種と積極的に「つながる」ことが必要です。本学会のテーマである「CONNECT」には、そうした未来に向けた発展への想いを込めています。

各講演について、普段の臨床で患者及び家族に関わっていく際に、自身の領域や目の前の課題にのみ固執するのではなく、その先がどのようにつながっていくのか概観できることが必要であると考え、プログラムの企画を行いましたので、概要を紹介します。

特別講演では、下肢装具のフォローアップ支援について、入院時に作製した装具が在宅移行後に、どのような制度を用いて更新され、フォローアップされているか知り、情報の連携や装具作製の知識について、医師及び理学療法士の視点からご講演いただきます。

教育講演では、在宅における呼吸リハビリテーションについて、在宅酸素療法や人工呼吸器管理などの在宅医療の実情を知り、医療機関から在宅に向けてどのようなリハビリテーション支援や連携が必要か学ぶ機会にさせていただきます。

シンポジウムでは、産前産後のウィメンズヘルスや福祉用具事業者での働き方、新しく始まったスクールトレーナー制度について、理学療法士の多様な働き方について、ディスカッションも含めご講演いただきます。

ハンズオンセミナーでは、野球とサッカーのスポーツ現場での実際の評価やトレーニング方法など、実技を中心として行います。

本学会のプログラムが、ご参加いただく皆さまにとって、新たな知識・技術・領域と「つながる」ためのきっかけとなれば幸いです。